

経営比較分析表（平成30年度決算）

香川県東平町 町営駅前東駐車場

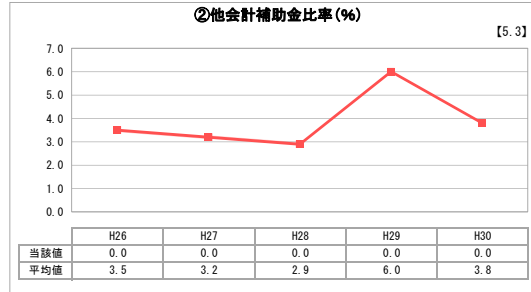
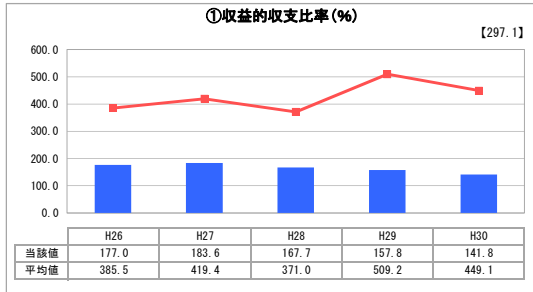
業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A 3 B 1	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	その他駐車場	広場式	30	

立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
駅	無	3,282
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
101	200	導入なし

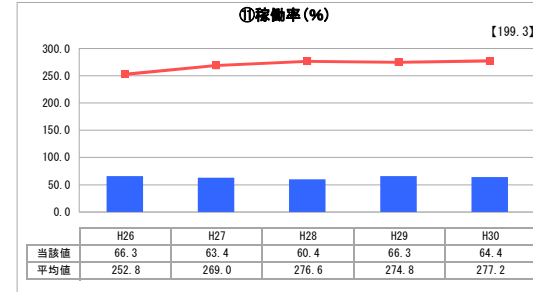
グラフ凡例

- 当該施設設値(当該値)
- 類似施設平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 収益等の状況



3. 利用の状況



分析欄

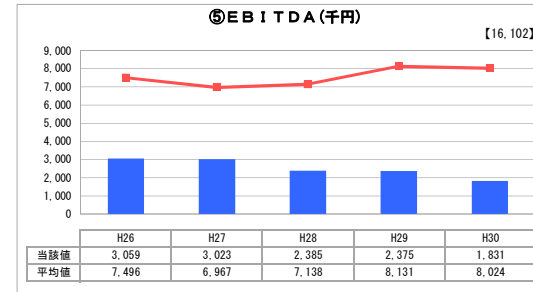
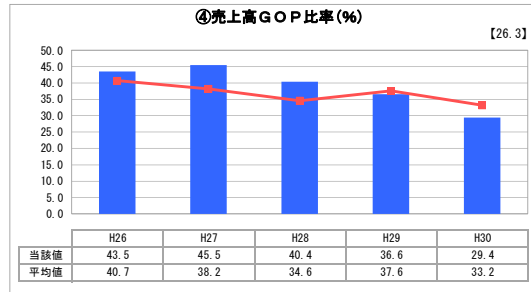
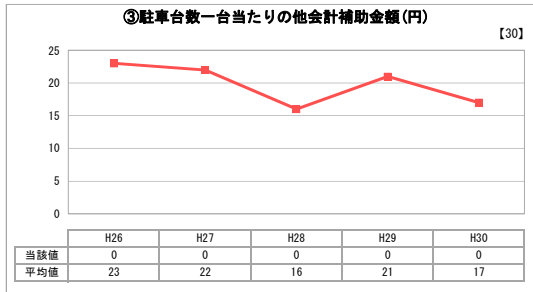
1. 収益等の状況について
 経年推移を見ると、安定して黒字で推移しており、健全な経営が行われている。
 料金収入面で課題を挙げるとすれば、営業時間が日中に限られていることと町内の主要観光施設からやや離れているために他の民間駐車場に利用客が流れていることのほか、月利用率が多い点であるが、近接する役場そのものの駐車場が狭小である中で当該駐車場があることにより来庁者や職員等の駐車スペースが確保されていることを鑑みると、当該駐車場の果たす役割は大きいと言える。
 また、駐車場の管理をシルバー人材センターに委託しているため、固定費として生じる委託料が歳出の大部分を占める点については、今後の費用削減に向けて無人ゲート等の採用も検討しつつ、より健全な経営を実現できるよう努めていきたい。

2. 資産等の状況について
 施設の経年劣化により都度補修が必要な個所が生じ設備投資見込額が多額に上るものの、敷地の地価が高いため、資産全体としての価値は高いものと思われる。
 設備投資見込額は、経年劣化したカーゲートや発券機、レジスター等の取替を予定しているものである。敷地の地価と比較して設備投資見込額が過小であるため、民間譲渡や他の用途への活用も考えられるが、利用者からの需要が一定数あり、特に観光シーズンには町内の渋滞を緩和し、観光客の安全確保にも一役買っている点をふまえ、現状は駐車場のまま活用する考えである。

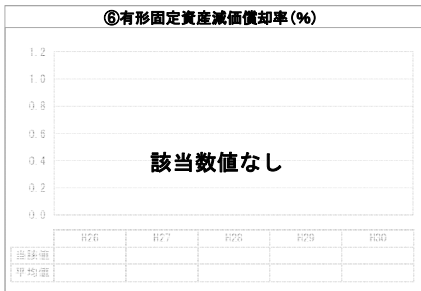
3. 利用の状況について
 稼働率の値が類似施設の平均を下回っているが、この原因は、収益面での課題と共通している部分が多いと思われる。
 中でも特に、当該駐車場の営業時間が日中のみに限られている一方で24時間自由に出入りできる無人のコインパーキングが町内に点在し、中には主要な観光地により近く、観光客に限られた滞在時間で効率的に観光したい場合に利便性の面で優れている。そのため、当該駐車場の需要が低下しつつあるものと思われる。
 しかし、役場駐車場が不足する際には代替駐車場としての機能を果たすという点で、当該駐車場に対する需要は常に一定数あるものとして期待できる。

全体総括

経年推移を見ると、安定して黒字の経営ができているが、今後の課題は歳出の大部分を占める管理委託料を削減することである。
 経年劣化した施設が多く、営業時間の延長にも繋がる無人料金精算システムの導入等も検討し、経営戦略の策定とともに費用の削減、収益の増加に向けて取り組んでいきたい。



2. 資産等の状況

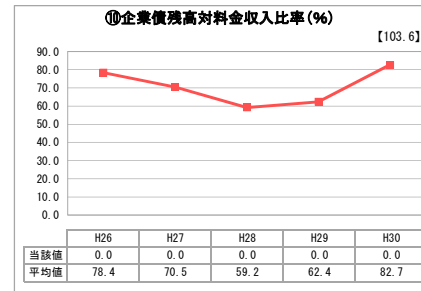


⑦敷地の地価(千円)

80

⑧設備投資見込額(千円)

79,992,387



経営比較分析表（平成30年度決算）

香川県香川町 町営駅前西駐車場

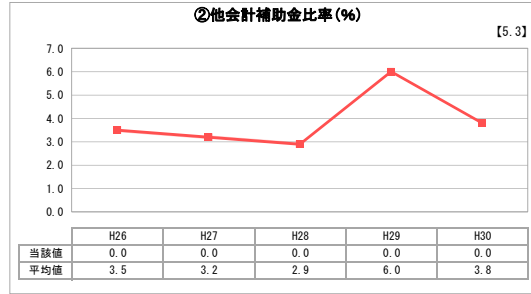
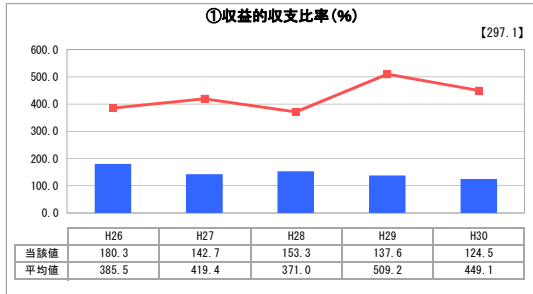
業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A3B1	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	その他駐車場	広場式	30	

立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
駅	無	2,976
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
46	400	導入なし

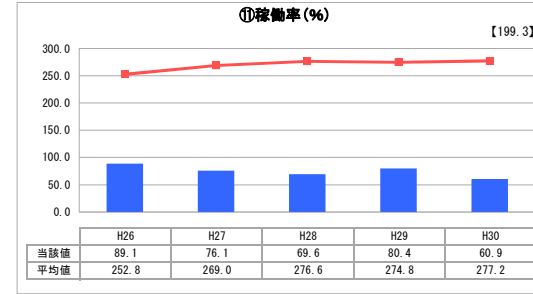
グラフ凡例

- 当該施設数値(当該値)
- 類似施設平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 収益等の状況



3. 利用の状況



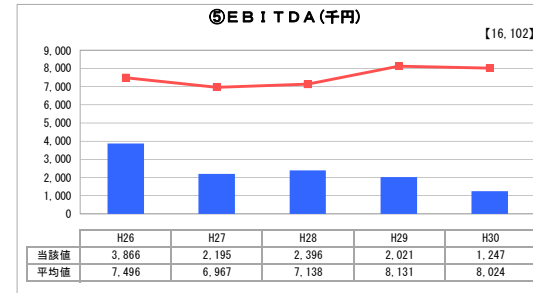
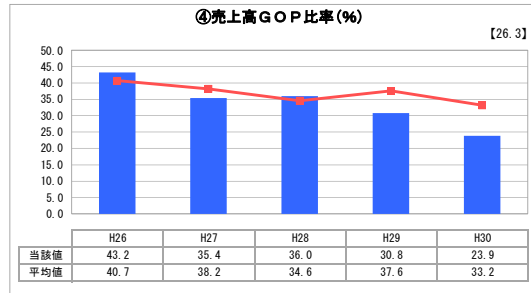
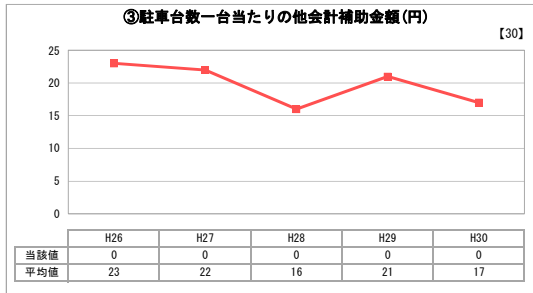
分析欄

1. 収益等の状況について
 経年推移を見ると、安定して黒字で推移しており、健全な経営が行われている。町内でも未だ少ない大型バスを10台駐車可能な施設であることから、団体客からの需要もあり、観光振興への寄与という観点からも果たす役割は大きいと言える。
 料金収入面での課題挙げるとすれば、営業時間が日中に限られていることと町内の主要観光施設からやや離れているために他の民間駐車場に利用客が流れている点である。
 また、駐車場の管理をシルバー人材センターに委託しているため、固定費として生じる委託料が歳出の大部分を占める点について、今後は費用削減に向けて無人ゲート等の採用も検討しつつ、より健全な経営を実現できるよう努めていきたい。

2. 資産等の状況について
 施設の経年劣化により都度補修が必要な箇所が生じ設備投資見込額が多額に上るものの、敷地の価値が高いため、資産全体の価値は高いものと思われる。設備投資見込額は、経年劣化したカーゲートや発券機、レジスター等の取替を予定しているものである。敷地の価値と比較して設備投資見込額が過小のため、民間譲渡や他の用途への活用も考えられるが、利用者からの需要が一定数あり、特に観光シーズンは町内の交通渋滞を緩和し、観光客の安全確保にも一役買っている点もふまえ、現状は駐車場のまま活用する考えである。

3. 利用の状況について
 稼働率の値が類似施設の平均を下回っているが、この原因は、収益面での課題と共通している部分が多いと思われる。
 中でも特に、当該駐車場の営業時間が日中のみに限られている一方で24時間自由に出入りできる無人のコインパーキングが町内に点在し、中には主要な観光地により近く、観光客に限られた滞在時間で効率的に観光したい場合に利便性の面で優れている。そのため、当該駐車場の需要が低下しつつあるものと思われる。
 町内に大型バスの駐車場が少ない中で当該駐車場はバス10台を収納可能であり、バス利用の観光客からの需要にも対応できる点で観光の町である当町においては常に一定数の利用が期待でき、観光振興への寄与にも結び付いているものと考えられる。

全体総括
 経年推移を見ると、安定して黒字の経営ができているが、今後の課題は歳出の大部分を占める管理委託料を削減することである。
 経年劣化した施設が多く、営業時間の延長にも繋がる無人料金精算システムの導入等も検討し、経営戦略の策定とともに費用の削減、収益の増加に向けて取り組んでいきたい。



2. 資産等の状況

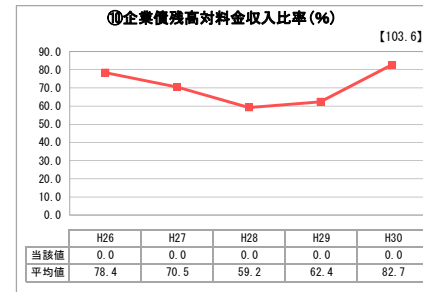


⑦敷地の地価(千円)

61

⑧設備投資見込額(千円)

61,412,949



経営比較分析表（平成30年度決算）

香川県 琴平町

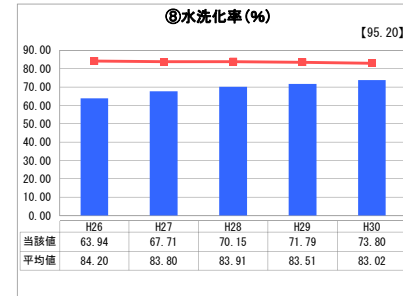
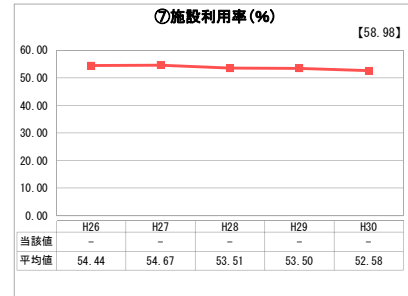
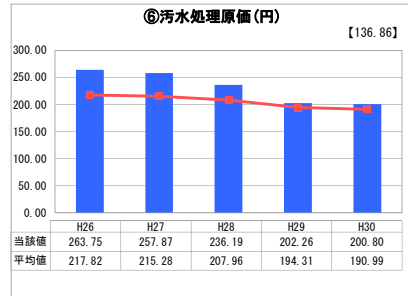
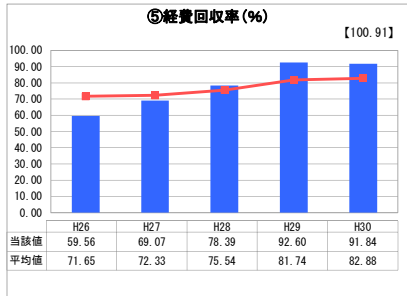
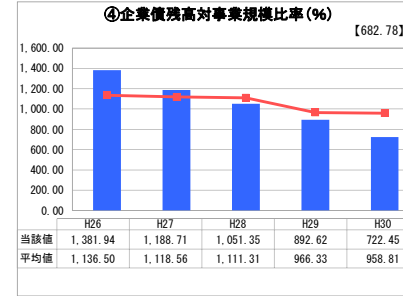
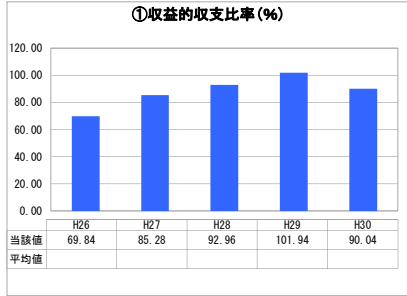
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	47.04	87.39	2,808

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
9,157	8.47	1,081.11
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
4,278	1.46	2,930.14

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

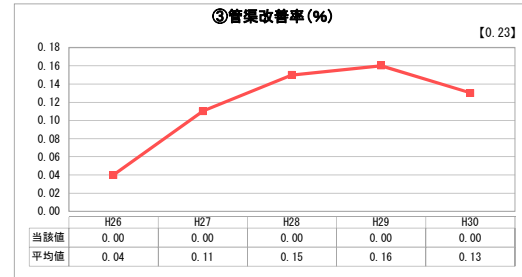
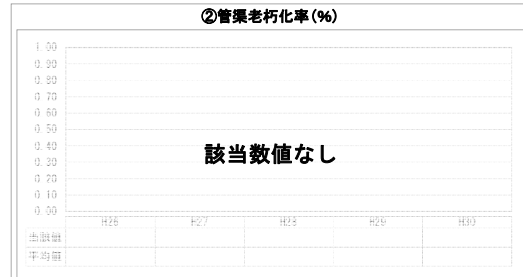
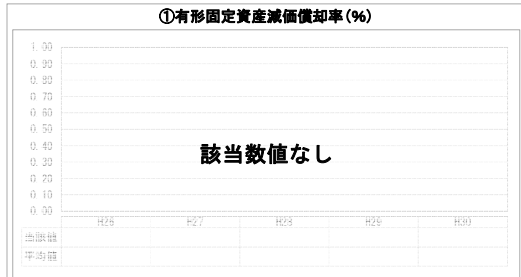
1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率については、平成29年度は、下水道使用料の増収及び他会計繰入金の増加により100%を上回ったが、平成30年度は、収益は使用料収入の減収及び他会計繰入金の減少、費用は維持管理負担金等が増額した為に100%を下回った。
 ④企業債残高対事業規模比率については、下水道整備を今後行わない決定によりそれに伴う地方債借入が無くなり、地方債残高は年々減少していく為今後も右肩下りの傾向となっていくと考えられる。
 ⑤経費回収率については、下水道使用料収入は減収したが、汚水処理費の算出方法を見直した事で汚水処理費も減少した為、僅かに下がった。今後使用料収入次第で経費回収率は上昇していくと考えられる。
 ⑥汚水処理原価についても、汚水処理費は減少したが同時に有収水量が大幅に減少した為、僅かに下がった結果となった。
 ⑧水洗化率については、下水道接続件数が増加したので僅かに上昇したが、依然として類似団体平均値を下回っている状態となっている。今後も広報・ホームページ等で下水道未接続の住民に周知し水洗化率を向上させる取り組みをしていく。

2. 老朽化の状況について

琴平町における下水道管渠整備については、昭和62年から平成28年度まで行い、平成30年度においては最長で32年経過している。
 下水道管渠の標準耐用年数は50年となっている。標準耐用年数は経過していないが、今後管渠の更新は必要となってくる。その為今後の取り組みとして、公営企業会計移行作業で必要とする固定資産台帳整備によって管渠の資産価値を把握し、その内容に基づきストックマネジメント計画を定め、管渠の更新を効率的に行っていくこととする。

2. 老朽化の状況



全体総括

平成30年度決算については、下水道使用料収入が平成29年度使用料収入の93.8%であったこともあり、収益的収支比率が11.9%下落したが、経費回収率・汚水処理原価は汚水処理費算出の見直しにより僅かな動きとなった。今後の見直しについては、人口減少は続いていくが、その反面インバウンド効果によって下水道使用料は増加することが考えられる。今後は平成28年度に策定した琴平町下水道事業経営戦略(平成28年度～令和7年度)に基づき、下水道事業の更なる経営の健全化の為、料金改定等について見直しを行っていく必要がある。また、公営企業会計の移行は令和6年度に予定しており、経営資産等を正確に把握し経営管理を向上していく。汚水処理事業の広域化・共同化については、事務の一元化や維持管理費の削減が出来るかを県及び関係市町で連携し、今後も実現に向けて努めていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。